

紹介します！

令和2年度使用 小学校の新教科書

来年度の教育課程の編成に関わって、教育課程の中核である授業について見通しを持つことは必須です。まずは、主たる教材である教科書が新学習指導要領の趣旨を反映し、どのように変わったか事前に把握しておきましょう。

すでに公表されていますが、来年度から使用する教科書は下記の通りになります。

【令和2年度使用教科用図書 採択結果】

	国語	書写	社会	地図帳	算数	理科	生活	音楽	図画工作
東南置賜	光村	教出	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文
西置賜	光村	光村	東書	帝国	啓林館	大日本	東書	教芸	日文

	家庭	保健	外国語	道徳
東南置賜	開隆堂	東書	東書	学研
西置賜	開隆堂	東書	東書	学研

- 東南置賜地区は、算数が啓林館から東京書籍へ、保健が学研から東京書籍へ採択替えになりました。
- 西置賜地区は国語と書写が教育出版から光村図書へ採択替えになりました。
- 新たに外国語が教科となり、教科書を使用して学習することになります。

どんな特徴があるのか、国語と算数、外国語の教科書について紹介します。

新教科書は、すべての教科書会社のものが、各市町教育委員会及び置賜教育事務所で閲覧可能です。貸出しも可能ですので、お問い合わせください。

【東京書籍 算数】



- ・1年生は入門期の学習内容を別冊にし、ブロックを置いたり、書き込んだりできるようになっています。
- ・「学びのとびら」「つないでいこう算数の目」などを設定し、「数学的な見方・考え方」を可視化する工夫があります。

【啓林館 算数】



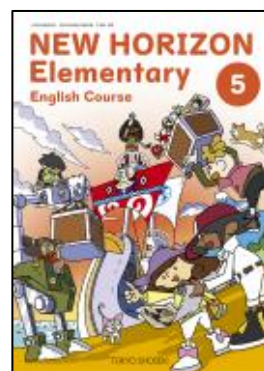
- ・各所にQRコードが掲載され、豊富な動画や補助問題が提供されており、家庭学習にも生かせる工夫があります。
- ・めあてにつながる児童の考えや気づきが「学びのめばえ」として強調されており、課題発見や解決の見通しが持てるようになっています。

【光村図書 国語】



- ・言葉による見方・考え方を働かせながら、深い学びを実現することができるよう、手掛かりとなる言葉が具体的に例示されています。
- ・单元ごとの「学習」のページでは、見開きで学習活動が一览でき、児童が見通しをもって主体的に学べるような工夫があります。
- ・振り返りの内容が焦点化され、3観点に添って自分の言葉で確かめられるようになっています。
- ・「情報の整理」に特化した単元が設けられています。

【東京書籍 外国語】



- ・各Unitで学んだことを生かす学習の場として、「Enjoy Communication」が設けられ、協働的な学習を通して英語で発信する探究的な活動を行うことができる構成となっています。
- ・「Your Turn」の項目では、やり取りを通して目標とする表現や語を自然に身に付けられるように工夫されています。
- ・別冊の辞書がついています。

今年度の「学力向上研究協議会」は、10月16日（水）と11月6日（水）の2回、下の内容で実施し、置賜管内の計83名の先生方にご参加いただきました。研修の内容、参加された先生方の感想を紹介します。

10月16日（水）

講義

「学ぶ楽しさ・よさを実感できる外国語・外国語活動 ～探究型学習の実践を通して～」

講師 山形大学 地域教育文化学部 准教授 金子 淳 氏

金子先生には、小学校「外国語活動・外国語」そして中学校「英語」における授業づくりのポイントを「探究型学習の視点も踏まえて講義いただきました。『母語を学ぶように外国語を習得していくことが大切である』、『まずは良質で多量なインプットを大事に授業を行う』という金子先生のお話により、参加された多くの先生方が授業のアイデアを膨らませた研修会となりました。

【参加された先生方の声】

- ・「自分が学生時代に習った学び方ではない」ということを意識し、授業づくりをしていきます。良質で多量なインプット、外国語の授業以外にも英語に触れられるような環境づくりをしていきたい。〈小学校〉
- ・「良質なインプット」を意識し、ALTと共に生徒にとって有効なリスニング場面づくりをさらに心掛けていきたいと思いました。〈中学校〉

11月 6日（水）

講義・演習

「アクションプラン新様式を活用したカリキュラム・マネジメントの推進」

置賜教育事務所 渡部 美千恵 指導主事

全国学力・学習状況調査については、各学校で、結果を分析し、アクションプランを通して課題の克服に努めていただいています。「全国学力学習状況調査」はこれからの時代に必要な資質・能力が、「問題」という形で示されたものです。求められる資質・能力の育成に向けて、新学習指導要領には、カリキュラム・マネジメントの重要性が明記されました。このことを踏まえ、県教育委員会では、アクションプランの様式を、カリキュラム・マネジメントの視点から全教職員で考えていけるものに見直しを図りました。

来年度からの新様式活用にあたり、本研究協議会では、事例校の結果を基に実際にグループでアクションプランを作成することでカリキュラム・マネジメントに対する理解を深めました。さらに、自校での活用について考えを交流することで、来年度に向けて具体的なイメージを持つことができました。

【参加された先生方の声】

- ・新様式での作成は、一人で作れるものではなく、全職員で考えを出し合い、学校教育目標を達成するためにどう取り組んでいくかを自分事として捉えられる良い機会でした。〈小学校〉
- ・今までは1人でアクションプランを作成してきましたが、今日のようにみんなで意見を出し合うことで、共有ができるだけでなく、自分にはないアイデアも出てきて有効だと感じました。〈小学校〉
- ・教科を超えて、学校の課題を解決していけるような運営をしていくことが大切だと感じました。教員によって差が出ないような取組みが、とても重要だと改めて思いました。〈中学校〉

